

2009 Student Campus President

活動報告



1. 総括

今年度で2期目ということもあり、初年度SCPの作り上げた基盤に更なる活動を上乗せしていくことを目的として活動を行ってきた。

食堂改善や学生生活にかかわる施設整備等の改善、禁止薬物乱用対策など、新たな成果を得られたことであれば、中々進めることができず成果を得られなかつたプロジェクトも発生した。

成果を得られたプロジェクトは、諸先生方や学生支援課と密に連携をとり、上手く連携できたことが要因となっていると感じた。また、それらのプロジェクトは学部別に行っており、その内容をSCP間でメールや伝言メモで情報の共有を行い、最終的な報告・確認をSCP会議で行うといった形がとられていた。

それに対してプロジェクト進行がままならなかつた事案については、全てのSCPが一度に集まれることが少なかつた事が何よりの要因となつた。また、学業と同時に複数のプロジェクトを進行させることは難しく、1年間という期間で多くの成果を出すことは困難であると感じた。

今後SCPが更なる発展を遂げるためには、実行していくプロジェクトの整理、年間を通した活動順序の整理、そして、それを協議するためのSCP会議の定期開催、SCP以外の自発的な活動希望者を増やし学生個々の負担を減らすことが求められる。

2. 2009 年度 SCP について

A) 構成員

薬学部 3 年 宮嶋 夢美
歯学部 2 年 奥住 洋平
看護福祉学部 2 年 山木 勇秀
心理科学部 2 年 佐々木 優

B) SCP 会議

目的

- ・プロジェクトの立案・企画
- ・各プロジェクトの進行状況報告、活動方針についての意見交換
- ・その他議題の協議

方法

構 成	SCP
事務職員	(学生支援課を中心)
その他必要な教職員	
開 催	月 1 回とするが、必要に応じ臨時に開催
招 集	SCP が開催日を調整し、招集

C) 自己反省

定期的に会議を開くことはほとんど出来ず、臨時と合わせると開催出来的会議は計 5 回と当初の計画よりも遙かに少ない回数であった。会議 자체は比較的スムーズに進行したが、その後のプロジェクトの進捗状況を互いに必ずしも把握していなかった。

カリキュラムや学部間移動、個人スケジュールの差異はあったものの、日程調節を上手に行えば定期的開催は可能であったと考えられる。実際にはメールや直接の打合せで解決した事項も多かったが、定期的に会議を開催した方が全員の活動を互いに確認することができたと思われる。

3. 会計

2009年度および2010年度（10月1日現在）の収支については、以下のとおりとなつた。

2009年度の支出額大幅減少は、2期目ということで1期目の備品や消耗品を使用することができたこと、プロジェクト自体を引き継いだものが多かったため、新たな備品を購入することが少なかつた事が要因としてあげられる。

2010年10月1日現在

2009年度収支報告(単位:円)

収入の部	
科目	小計
SCP活動費	1,200,000
その他	0
合計	1,200,000
支出の部	
科目	小計
消耗品費	300,339
旅費交通費	11,870
涉外費	23,000
印刷製本費	66,514
支払報酬金	0
支払手数料	0
その他の備品	222,780
新聞図書費	3,990
合計	628,493

2010年度中間収支報告(単位:円)

収入の部	
科目	小計
SCP活動費	1,200,000
その他	0
合計	1,200,000
支出の部	
科目	小計
消耗品費	74,733
旅費交通費	7,000
涉外費	5,100
印刷製本費	0
支払報酬金	0
支払手数料	0
その他の備品	0
新聞図書費	0
合計	86,833

4. 各プロジェクトについて

① SCP 掲示板による要望募集・大学への提案

概要

2期目とはいえただにSCP制度の存在さえ知らない学生も多数存在していた。そこで、SCPの活動を学生に認知してもらうために、大学への要望をSCP掲示板を介して隨時、募集・対応する方針で活動を行った。

活動内容

〈実施された改善点〉

- ・一部トイレ改修（歯学部・中央講義棟）
- ・定期試験合否結果WEB公開（但し、掲示板発表の2日後）
- ・講義環境の改善 等

〈実施できなかったもの〉

- ・大学への生協導入 → 学生総数が不足しているためとのことだった。

〈着手しなかったもの〉

- ・図書館の24時間開放
- ・食堂の料金値下げ

問題点

- ・投書の意図がはっきりと読み切れないものが多く、対応出来ないものが多かった。
- ・行事や学業の関係もありSCP側の対応が遅く、回答が遅れた。その為、意見書に急いでほしいとの追加記入が度々あった。
- ・実現困難な意見も寄せられたが、その際の対応が不適切だったため、学生側へ不信感を与えてしまったように感じられる。

自己評価

講義に関してよりも大学環境に対して様々な意見が寄せられた。学生の関心が、日常生活面に対して非常に高いことが窺える。特に定期試験前や行事前などに多数の意見が寄せられていたものの、その間の対応を怠ったため、折角の機会を逃したことが悔やまれる。

今後、運営方針について再検討の必要があると思われる。

② 食堂改善プロジェクト

概要

前年度活動であった大学改革企画の1つである「食堂改善プロジェクト」の流れを受け継ぎ、当別キャンパス担当を薬学部 SCP、札幌あいの里キャンパス担当を心理科学部 SCP とし、担当 SCP が直接食堂業者と意見を交換し合いながらプロジェクトや引き継ぎ事項を遂行することとした。

成果

食 堂	内 容
中央食堂	<ul style="list-style-type: none">・QRコード利用による会員限定サービスの提案・「Campus Bakery」の導入・メニューのカロリー表示
ビストロスマイル食堂	<ul style="list-style-type: none">・メニューの事前公開の提案・新入生への利用方法案内〈食堂案内人〉
札幌あいの里キャンパス 食堂	<ul style="list-style-type: none">・食堂—利用者間の交流掲示板の設置・カフェメニュー考案（継続協議）・自動販売機の設置（軽食）・券売機の移設による混雑緩和
全食堂	<ul style="list-style-type: none">・新入生へのチラシ配布・各食堂オリジナルメニュー導入の検討

問題点

- ・食堂業者側と連絡が適切に取れず、プロジェクト進行に支障を来たした。
- ・春休み～新学期と非常に短期間での調整となつたため、十分な内容とすることができなかつた。

自己評価

協議調整の時間がうまく取れず、多くの企画が実現できなかつたことが悔やまれるが、両キャンパスそれぞれ、ある程度の実績は残すことができたと考えている。

学生の意見を食堂業者側に伝える、ということについても両者の認識が共有でききたようだ。ただ、メニューの改善については、大きな成果が挙げられなかつた。メニュー改善に関しては時間がかかることが予想されるため、長期的な計画を立て、次期 SCP に継続して、取り組んでもらう必要がある。

③ SCP ホームページの設置

概要

SCP の活動を、学内はもとより、学外に対しても、より多くの方々に知ってもらうために、新たに HP を立ち上げることを企画した。

協力してくれた学生を中心に枠組みの構築からコンテンツの企画など話し合い、作成した。平成 22 年 4 月より下図のように稼動している。

URL <http://scp.hoku-iryo-u.ac.jp/>

自己評価

学内で当該 HP の存在を知っている学部生は少なく、院生・教職員の閲覧が主となっているので、今後周知していく必要がある。また、未整備のページも存在しているため、今後も継続して構築していく必要がある。

学内掲示板では不可能なことも実現可能であり、更なる機能追加なども可能なことから、SCP 活動の周知について、重要なツールになると感じている。

④ 禁止薬物乱用対策

概要

昨今の大学生の禁止薬物乱用事件が多発していることを受けて、取り組んだ。

学内の学生に禁止薬物に関する正しい知識を得てもらうための啓発活動や、医療系総合大学である本学から乱用防止を社会に発信することが大切であると考えた。

活動内容

① 「薬物乱用防止キャンペーン」への参加 (2010.3.7 主催：札幌薬剤師会)

- ・SCPを中心として学生たちの研究成果をポスター展示した。
- ・またステージイベントで、一般の方々を対象に、大学生の視点からの薬物の怖さを訴えることができた。
- ・今後についても主催者の札幌薬剤師会より要請されており、継続して参加の予定である。

② 禁止薬物に対しての本学学生の意識調査

- ・各学部1学年～3学年についてアンケートを実施した（資料参照）。
- ・学生にとって禁止薬物がいかに身近な存在になってきているかという事実が浮き彫りになったと思う。この結果はSCPや、一部先生方だけではなく北海道医療大学全関係者が目を通すべきであると感じた。
- ・本学の薬物事件再発防止委員会と連携しながら行うことができた。
- ・今後の啓発活動に生かすことができる内容になったと思っている。

③ 九十九祭での展示発表

- ・学内外の方々を対象にして、上記①②のポスター、アンケート結果（一部）を展示発表した。

自己評価

学外のイベントに参加したり、学内組織と連携しながらの意識調査を実施できたことができたことは非常に良かったと思う。本活動については、その過程で難しい部分もあったが、私たち自身も成長することができたと感じることができた。

⑤ ブランド商品の製作

概要

前年度 SCP が発案していた生薬「紫根」を用いた化粧品の製作について、引き続き取り組むこととした。薬学部 SCP を中心に、前年度薬学部 SCP、薬学部 OB、薬学部生薬学講座の協力を得ながら、進めることとなった。

活動内容

① 薬学部 OB、講座との連携

- ・講座の協力を得て、SCP を中心に学生たちで、ハンドクリームを製作した。
- ・より質の高いものを製作するために、薬学部 OB を訪ね、その指導のもと、化粧品の製造工場を見学。あわせて数種類のサンプルを製作した。
- ・サンプルの中から、基本となる商品をゲル状化粧水と決定した。
- ・ネーミング、デザインについて、OB 教職員関係者で考案、決定した。

② サンプル品製作

- ・サンプル品を製作した（500 個）。（下記写真）
- ・今後、モニターを募集し、アンケート結果によってさらに改良していく予定である（アンケート案参照）。



: ゲル状化粧水「ポラリスパープル（仮）」
サンプル品

自己評価

薬学部 OB の方や、薬学部の講座に協力してもらひながら、サンプル品の製作を行うことができた。協議調整の時間が思うように取れないこともあり、なかなか前進しないこともあったが、工場見学や、工場でのサンプル製造など勉強になる部分が多くなった。今後さらに次期 SCP に引き継ぎながら進めていきたい。

⑥ その他

① 心理科学部 SCP 室の設置

- ・心理科学部 SCP の活動をより円滑に行うため、あいの里キャンパスに SCP 室を設置した（就職相談室の閉室時間帯を利用）。3月初旬より稼動している。

② 新入生宿泊オリエンテーションモダチツール提供

- ・新入生が、なかなか大学になじめない、といった風潮があるようと思われる。まだ慣れていない同級生・先輩方とのコミュニケーションを行い、少しでも早く仲良くなることが目的で、将来必要なコミュニケーション能力を養う第 1 歩として役立てば、との思いから実施した。裏面に SCP の宣伝面を作成し、SCP を知ってもらうことも同時にねらっている。

心理科学部 2010 年度新入生宿泊オリエンテーションで、「名刺（1 人 10 枚）」を提供した。

好評であったので、次年度以降も継続して実施していきたい。

資料

- 禁止薬物乱用対策 意識調査結果
- ゲル状化粧水 モニターアンケート案

禁止薬物乱用に

関するアンケート

昨今、社会全体で覚せい剤や、大麻などの禁止薬物乱用が話題になっています。テレビで話題になっている事件は氷山の一角であり、まだまだ後を絶たないのが現状です。また、大学生や高校生、中学生が禁止薬物を使用するなど、低年齢化も見られます。

そこで、わたしたち北海道医療大学S C P (Student Campus President) は、一昨年度より禁止薬物乱用防止のために勉強会を立ち上げました。薬物乱用に関する問題は間違いなく身近に迫ってきているからです。

これを受け本学では、薬物乱用対策委員会の設立や、札幌薬剤師会とAIR-G' FM北海道主催の薬物乱用防止キャンペーンへの参加などを行い、薬物乱用を撲滅するよう活動してきました。その一環として、今回、薬物に対する学生の意見をアンケートとして集計し、今後の活動に何かしていくこととなりました。

これ以上薬物乱用者を出さないためにも、皆さんのご協力をお願い致します。

注意) なお、この禁止薬物に関するアンケートの結果は、集計次第ご報告いたします。

1. あなたの性別をお答えください。

男 女

2. あなたの年齢をお答えください。

10代 20代 30代 その他

3. あなたのお住まいの地域はどちらですか？

札幌市内 石狩郡 その他

4. 薬物乱用に関する特別講義は、自分の為になっていると思いますか？

なっていると思う なっていないと思わない

5. 禁止薬物に関して確かな知識を持ち合わせている自信がありますか？

ある いいえ

1 8. 禁止薬物を使用した結果、自分や周囲に及ぼす影響を考えたことがありますか？

ある ない

1 9. もし友人が禁止薬物を使用しているのを知ったとき止めますか？

とめる（だれかに相談する） とめない

2 0. 禁止薬物を使用すると依存症になることを知っていますか？

知っている 知らない

2 1. あなたの知っている依存症の症状（病名）を挙げてください。

2 2. あなたが禁止薬物を手に入れようとしたとき簡単に手に入ると思いますか

思う 思わない わからない

2 3. 禁止薬物使用者に対して学校側が課す処罰について知っていますか？

知っている 知らない

2 4. 禁止薬物を使用すると国家試験を受けられなくなるのを知っていますか？

知っている 知らない

2 5. 薬物使用経験者や薬物使用者の治療にかかわっている人の話を聞いてみたいですか？

はい いいえ

2 6. 大学の図書館に薬物乱用に関する書物やDVDがあることを知っていますか？

知っている 知らない

2 7. 薬物乱用対策に興味がありますか？

ある ない

2 8. 薬物乱用の勉強会に参加してみたいですか？

参加してみたい 参加したくない

ご協力ありがとうございました。

6. 過去or現在、周囲に禁止薬物を使用していた人がいましたか？

いるいた いない

7. (今までに) 禁止薬物の使用を勧められたことがありますか？

ある ない

8. (今までに) 禁止薬物の実物を見た事がありますか？

ある ない

9. インターネットで禁止薬物に関するサイトを閲覧したことがありますか？

ある ない

1 0. 禁止薬物の依存性のない状態で課せられる法的処置を知っていますか？

知っている 知らない

1 1. 禁止薬物の依存性のある状態で課せられる法的処置を知っていますか？

知っている 知らない

1 2. ストレスが溜まった時に禁止薬物・睡眠薬等を使おうと考えた事がありますか？

ある ない

1 3. 禁止薬物の名称をいくつか挙げられますか？

はい いいえ

1 4. 1 3でハイと答えた方へ、挙げられるものをすべて書いてください。

1 5. 禁止薬物の売買や受け渡しをしていると思われる場面を見たことがありますか？

ある ない

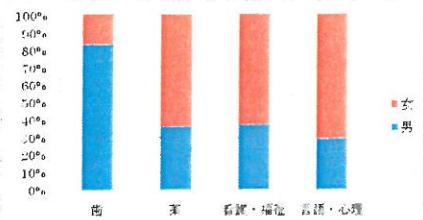
1 6. 1 5でハイと答えた方へ、

実際に目撃した場所を可能な限り具体的に記してください。

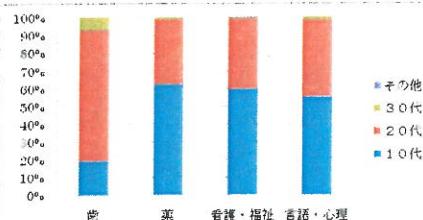
1 7. 薬物の使用は個人の自由なので別にかまわないと思いますか

思う 思わない

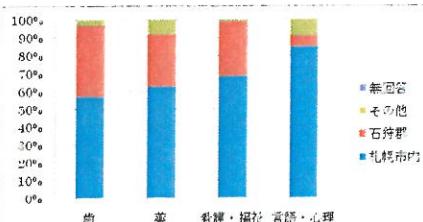
1. あなたの性別をお答えください。



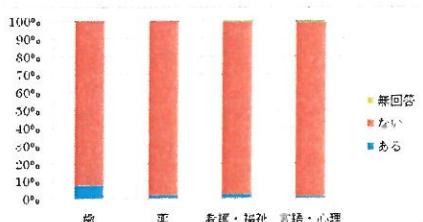
2. あなたの年齢をお答えください。



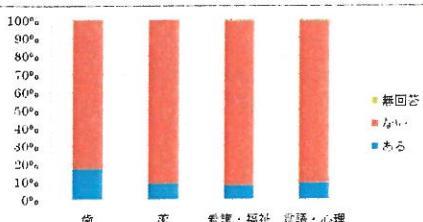
3. あなたのお住まいの地域はどちらですか？



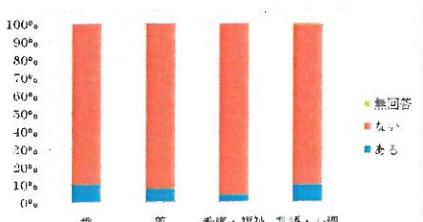
7. (今までに) 禁止薬物の使用を勧められたことがありますか？



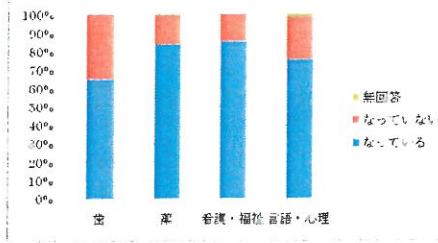
8. (今までに) 禁止薬物の実物を見た事がありますか？



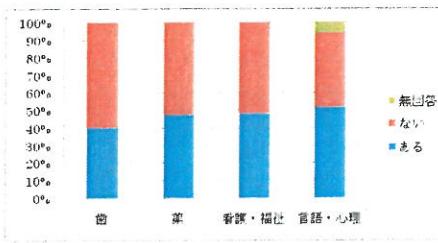
9. インターネットで禁止薬物に関するサイトを閲覧したことがありますか？



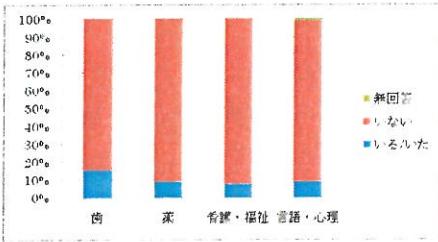
4. 薬物乱用に関する特別講義は、自分の為になっていると思いますか？



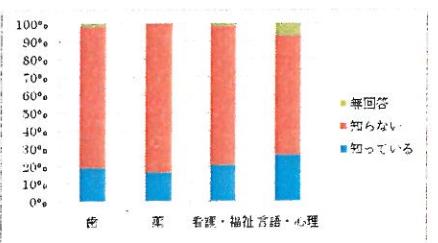
5. 禁止薬物に関して確かな知識を持ち合せている自信がありますか？



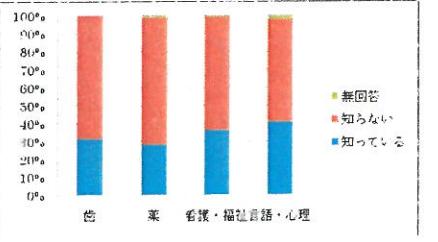
6. 過去or現在、周囲に禁止薬物を使用していた人がいましたか？



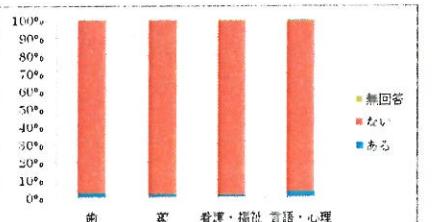
10. 禁止薬物の依存性のない状態で課せられる法的処置を知っていますか？



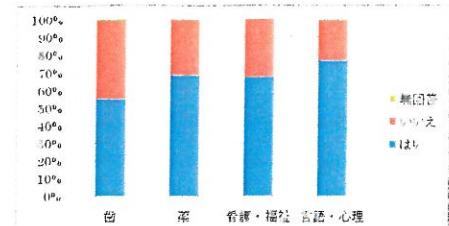
11. 禁止薬物の依存性のある状態で課せられる法的処置を知っていますか？



12. ストレスが溜まった時に禁止薬物・睡眠薬等を使おうと考えた事がありますか？

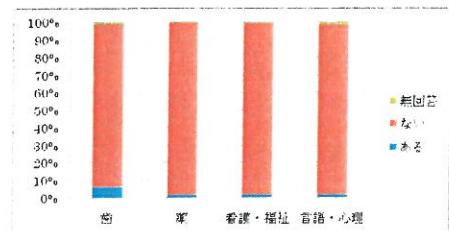


13. 禁止薬物の名称をいくつか挙げられますか？



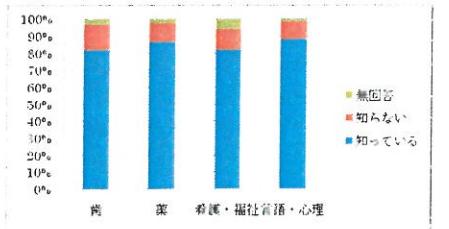
14. 13でハイと答えた方へ、挙げられるものすべて書いてください。
別紙

15. 禁止薬物の売買や受け渡しをしていると思われる場面を見たことがありますか？



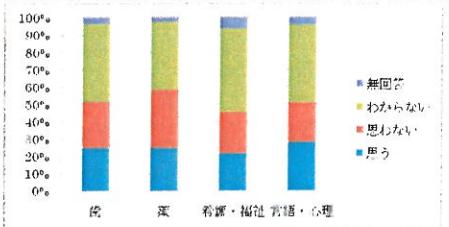
16. 15でハイと答えた方へ、実際に目撃した場所を可能な限り具体的に記してください。
別紙

20. 禁止薬物を使用すると依存症になることを知っていますか？

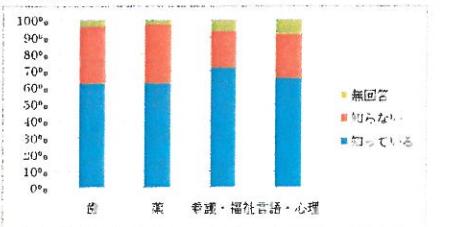


21. あなたの知っている依存症の症状（病名）を挙げてください。
別紙

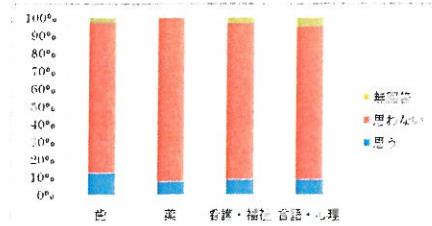
22. あなたが禁止薬物を手に入れようとしたとき簡単に手に入ると思いますか？



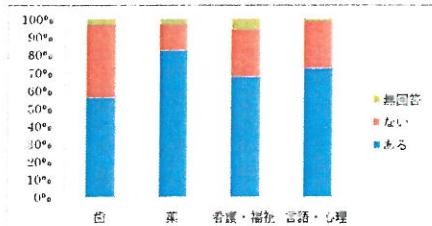
23. 禁止薬物使用者に対して学校側が課す処罰について知っていますか？



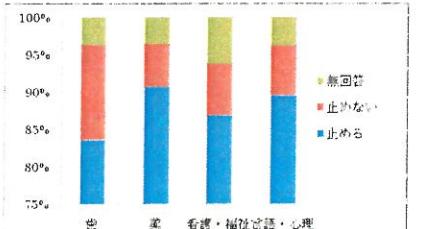
17. 薬物の使用は個人の自由なので別にかまわないと思いますか？



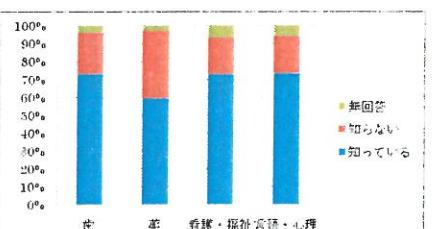
18. 禁止薬物を使用した結果、自分や周囲に及ぼす影響を考えたことがありますか？



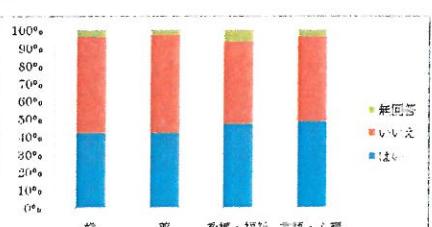
19. もし友人が禁止薬物を使用しているのを知ったとき止めますか？



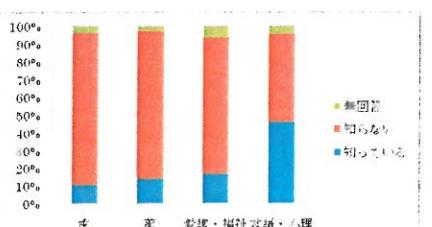
24. 禁止薬物を使用すると国家試験を受けられなくなるのを知っていますか？



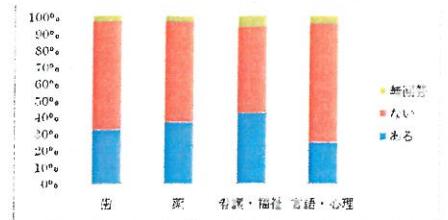
25. 薬物使用経験者や薬物使用者の治療にかかわっている人の話を聞いてみたいですか？



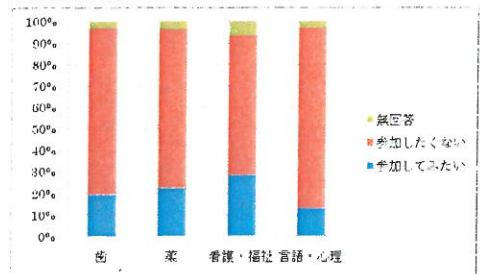
26. 大学の図書館に薬物乱用に関する書物やDVDがあることを知っていますか？

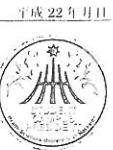


27. 薬物乱用対策に興味がありますか？



28. 薬物乱用の勉強会に参加してみたいですか？





「Polaris Purple」アンケートフォーム案

「Polaris Purple」をご利用になって、以下のアンケートにお答え下さい。

※刺激感等の異常を感じた場合は、すぐに使用を中止し皮膚科医や薬剤師にご相談下さい。

性別

1. 女 2. 男

年齢

1.10代 2.20代 3.30代 4.40代 5.50代 6.60代以上

あなたの肌質について

1.普通肌 2.乾燥肌 3.乾燥・油性混合肌 4.油性肌 5.敏感肌 6.アトピー肌

あなたの肌トラブルについて（複数回答可）

1.シワ 2.シミ 3.毛穴の開き 4.潤い不足 5.たるみ 6.くすみ 7.ハリ 8.クマ
9.きめの粗さ 10.ニキビ・吹き出物 11.肌荒れ 12.血色が悪い 13.その他（ ）

肌との相性はいかがでしたか？

1.とても良かった 2.結構よかったです 3.あまり良くなかった 4.悪かったです

どのくらいの頻度でご使用になりましたか？

1.1日1回 2.1日2回 3.1日3回以上 4.2日に1回 5.3日に1回以下

ご使用になった期間はどれくらいですか？

1.1週間未満 2.1週間以上3週間くらい 3.約1ヶ月 4.1ヶ月以上

ご使用になって感触はいかがでしたか？（複数回答可）

1.しっとり 2.さっぱり 3.べタベタ 4.うるおい 5.低刺激 6.肌に馴染みやすい
7.刺激がある 8.肌に馴染まない 9.においが気になる
9.その他（ ）

使い心地から、いくらくらいの商品だと感じますか？

（円/50g）

他効果や使い心地についてコメントをお願いします

今後、どのような商品を「北海道医療大学ブランド商品」として欲しいと思いますか？

（ ）

ご協力ありがとうございました

回収場所：北海道医療大学 SCP 実験室 1F 生支援課及び心理科学課
平成 22 年 月 日 17:00 まで

【目 的】商品化に向けての改善事項の検討

【方 法】サンプル品及びアンケート用紙を希望者へ配布

アンケートの回収及び解析

【対 象】北海道医療大学に所属する学生及び教職員 200 名

(ただし、アンケートに協力する意思のある方のみ)

【参加方法】学生支援課及び心理科学課窓口にて受付

【期 間】平成 22 年 月 日まで

(参加募集はサンプル品が無くなり次第終了します)

【問い合わせ】学生支援課 TEL 0133-23-1095(内線××××)

心理科学課 TEL 011- (内線△△△△)

SCP E-mail: sep@hoku-iryo.u.ac.jp 以上

Student Campus President

！！ かならず お読みください ！！

化粧水(ポラリスパープル モイストゲル) 使用にあたって

使用方法

- ・ お顔後、適量を手のひらにとり、軽くおさえるようにして顔全体になじませます。
- ・ とくに肌がテリケートになっているときは、強くこすりすぎないよう、手のひらで軽くおさえるようにしてなじませます。
- ・ 顔だけでなく、身体や手などにもお使いいただけます。

使用上の注意

- ・ きず・はれもの・しつしん・かぶれ等 異常のあるところには、お使いにならないでください
- ・ お肌に合わない時は、ご使用を中止し、皮膚科専門医等にご相談ください。
 1. 使用中、赤み、はれ、かゆみ、刺激等の異常があらわれた場合。
 2. 使用したお肌に、直接日光があたって上記のような異常があらわれた場合。
- ・ 目に入った時は、こすらずに、すぐにきれいな水で充分に洗い流してください。
- ・ 清潔な手で取り扱い、使用後はしっかりと蓋を閉めてください。また、一度取り出し中身を再び容器の中に戻すことは絶対におやめください。

保管および取り扱い上の注意

- ・ 直射日光や高温多湿を避け、お子様の手の届かないところに保管して下さい。
- ・ 天然由来原料使用のため、色調に多少の違いが生じる場合がございますが、品質には問題ございません。
- ・ 植物色素を含有しているため、衣類に色移りする場合がございますので、充分ご注意ください。